

編集後記

今回の「月報」505/506号合併号は、2005年3月に実施した社研春季合宿研究会（北京）特集号である。

本号前半部分は、合宿研究会の日程実質4日間のうち、2日間を費やしたわが社研と中国社会科学院（都市発展と環境研究センター）の合同研究会に関するものである。中国側の報告は了解を得てレジュメをそのまま掲載している。社研側からの報告は、報告者全員そろってはいないが、今回の特集号のために改めて原稿を出してもらったり、あるいはシンポジウムの事前に用意されたペーパーを掲載している。

本号後半部分は、参加者の所感がいつもの合宿研特集号と同様に並んでいる。今回の合宿研に参加したメンバーは26人、執筆者は「日本側報告者論文」執筆者を含めちょうど半分の13人である。全体を眺めると、どのメンバーにとっても印象深い4日間だったことが分かる。

今回合宿研の柱だった「学術シンポジウム」の相手方が、中国社会科学院「都市発展と環境研究センター」であり、また同センターに所属している実質的な仲介役の李国慶氏および社研所員大矢根淳氏が、胡同と四合院の調査をされていることもあり、参加メンバーには特に胡同・四合院の実地調査が印象深かったようである。実際、同じ時間帯に編成された企業訪問と胡同・四合院/街道・社区聞き取り調査のスケジュールには、後者の方に参加するメンバーの方が多かった。急速に発展を遂げる都市北京の伝統的な居住区と住居形態が、どのように変化を遂げつつあるのか、これは誰しも興味深いことだろう。

今年度は、引き続き発展・変化する中国に目を注ぎ、来たる2006年春合宿には上海に行くことを予定している。北京と上海という、様々な位相でそれぞれに異なった中心である二都を比較したい。そのためにも、今回はまず「北京」特集号をお届けする。 (S.M)

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 柴田弘捷

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
